

きらめく  
まぢビト  
×  
吉川一茶



今年で27回目を迎えた天塩川でカヌーを下るイベント「ダウン・ザ・テッシーオーベツ」。「自分たちで出場したい大会を開催しよう」と、同大会を仕掛け、実行委員長を務める吉川さんに、カヌーや天塩川の魅力、子どもたちへ伝えたいことなどをインタビューしました。

天塩川は昔の自然が残っている。時に厳しいが、私たちを受け入れてくれる。

カヌーを始めたきっかけは  
一学生時代、アパートのそばに川があり、そこが競技用のボートのコースになっていて興味がありました。就職して名寄に戻ってきて、カヌーを始めようと、30年以上前にカヌークラブを作りました。最初みんなは湖や沼などで乗っていました。私はひとりりで初めて天塩川を下りました。帰って来れないのではと思いましたが、全然そんなことはなかったです。それから、みんなで天塩川を下るようになりました。当時、カヌーブームで、その時にたくさん仲間ができ、カヌーを作ることもしていました。

カヌーを続ける理由は何ですか

カヌー大会「ダウン・ザ・テッシーオーベツ」を運営していると、ボランティアの大学生や、教授、医者など、たくさんの方に会えます。大会を27年間続けていると、子どもの頃出場していた子が大学生になり、就職してからも出てくれて、嬉しく思います。自分の子どもたちも幼い頃からカヌーに乗っていて、周りの大人から良い刺激を受けました。カヌーの仲間たちに子どもが育てられ、自分も育てら

天塩川の魅力は何ですか

一ひとつは手つかずの自然がたくさん残っていることです。例えば、音威子府一川間にアイヌの人たちが「神さまの道で風が通る」という意味でつけた「神路」という場所があります。それを知らないで行くとも風が吹かれてびっくり返ることもあります。何世紀も前、アイヌの人たちが感じた自然を味わうことができます。

また、春夏秋冬、違う景色を楽しめることも魅力です。水の量がそれぞれ違ったり、冬には陸からは見えない野鳥を楽しめます。

天塩川流域にたくさんの方達や知り合いができたので、自分のまちだけが良ければいいという考えではなく、流域全体がうまくいけばいいという思いになります。

「ダウン・ザ・テッシーオーベツ スペシャル大会」を終えての感想は

一正直ここまで続くとは思っていませんでしたが、楽しみにしている方がいるので、みんな頑張っています。外国からの選手には、ルールを伝えるのも一苦労でしたが、無

事に迎え入れられたので、実行委員会にとって自信につながりました。ナヨロカヌークラブの仲間は、大会を成功させようと4日間協力してくれましたし、天塩川流域の関係者のみなさんも手伝ってくれたり観に来てくれたり、27年間関係を築いて、助けられる人がたくさんいると実感しました。

子どもたちに伝えたいことは

一テレビや新聞で見ただけでなく、自分で手足を動かして自然に触れ合ってほしいです。北国博物館の自然観察クラブに入ってみるのもいいと思います。また、自然だけではなくて人間の環境もあるので、外に出て、家族と学校の先生以外の、いろいろな大人に出会ってほしいと思います。

Profile

吉川 一茶 (きちかわ かずさ)

昭和35年旧名寄市生まれ。市内で保育士として働く。カヌーを体験してみたいかは canoe.hccc@gmail.com までメールで連絡を。

きらめくまぢビト…名寄市内で活躍する市民などの紹介を通して、地域の魅力を発信します。